

横浜市立 共進中学校 学校評価報告書 (平成28～30年度)

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①国語、数学、英語、体育のTT授業を通して、効果的に学力の向上を図る。②日常的な授業公開や授業評価を行い、授業の質的向上を図る。③放課後の学習会を実施し、基礎の定着を図る。	①については学習状況調査等を踏まえ、再度学力の向上を図るよう次年度へつなげた。②授業評価・授業公開も実施したが、年度末に間に合わせて実施するようなことがあったので適宜計画的に実施したい。③放課後の学習会は徐々に生徒数が増加し、職員の補充・場所の確保を来年度に実施したい。	B	確かな学力	①数学、英語、理科のTT授業を通して、効果的に学力の向上を図る。②日常的な授業公開や授業評価を計画的に行い、授業の質的向上を図る。③放課後の学習会を実施し、基礎の定着を図る。自ら学ぶ生徒の育成を目指す。	①数学、英語、理科での少人数指導、TT指導を通し、より理解を深められる授業作りに努めた。②小中一貫研究授業や授業公開の機会を通じて、いただいた意見をもちに授業改善を行った。③放課後学習会では多くの生徒が自主的に参加している。基礎・基本の定着を図れるよう、来年度につなげていきたい。	B	確かな学力	①少人数指導、TT指導などを通して、効果的に学力向上を図る。②日常的な授業公開や授業評価を計画的に行い、授業の質的向上を図る。③放課後の学習会を実施し、基礎の定着を図る。形態を工夫し、生徒の自ら学ぶ意欲喚起に努める。	①数学、英語、理科でのTT指導などを通して、より生徒が理解を深められる授業づくりに努めた。②研究授業や研究討議を通じて、日々の授業を振り返り、授業改善につなげた。③各月の学習会の他、夏休み学習会で個々の生徒への指導を行った。より成果が上がるよう、模索していきたい。	B
豊かな心	①自己理解、他者理解を充実させていき、国際理解教育、多文化共生につなげていくことで、地域に合ったコミュニケーション能力を育成していく。②各学校内で確立されている道徳教育の情報交換を行い、地域に合った道徳教育を再構築していく。そして、9年間を通して、自己の生き方、人間としての生き方の考えを深めていく。	①自己理解に始まり、他者理解、地域理解、国際理解、多文化理解と徐々に視野、視点を広げ、つながりのある取組を、コミュニケーション能力の育成に努めた。②道徳教育について小学校と情報交換を行い、現状の把握に努めた。各校の特徴ある授業内容を生かしながら、今後、具体的にどのように連携していくか今後の課題である。	B	豊かな心	①コミュニケーション能力育成の取組として、生徒会と連携し「朝のあいさつ運動」の充実を努めていく。②横浜子ども会議の内容を受け、共進中学校でのスローガンを作成する。③道徳教育の情報交換を小学校、地域、保護者で行い、9年間を通して、自己の生き方、人間としての生き方の考えを深めていく。	①学級委員、企画委員を中心として「朝のあいさつ運動」を行い、コミュニケーション能力育成に努めた。②横浜子ども会議の内容を受け、全校生徒へ報告提案をした。③道徳教育について小学校と情報交換を行い、現状の把握に努めた。各校の授業内容を生かしながら、具体的にどのように連携していくか今後の課題である。	B	豊かな心	①コミュニケーション能力育成の取組として、生徒会と連携し「朝のあいさつ運動」の充実を努めていく。②横浜子ども会議の内容を受け、全校生徒へ報告提案を行う。③道徳・人権教育の情報交換を小学校、地域、保護者で行い、9年間を通して、自己の生き方、人間としての生き方の考えを深めていく。	①学級委員、企画委員を中心に「朝のあいさつ運動」の充実を努めた。②横浜子ども会議の内容を受け、全校生徒へ報告提案をした。③道徳・人権教育の情報交換を小学校と情報交換を行い、現状の把握に努めた。各校の取組を生かしながら、具体的な連携の仕方を話し合い、課題を上げることができた。	B
健やかな体	①保健体育科では「健康の保持増進」を第一の目標とし、基礎体力の向上に努めるとともに、体を動かす楽しさや喜びを学ぶことで、生涯にわたって健康を意識し、運動を楽しむ生活を送れるようにしていく。②家庭科では、食教育と関連して保健体育・保健分野と運動した授業(特に食生活)を展開する。	①保健体育科では、毎授業においてランニングの時間を確保し、基礎体力の向上に努めた。また、体育理論も含め、各種目の特性の理解に重点を置き指導を行うことで、生涯体育の普及に努めた。②家庭科では、食教育と関連して保健体育・保健分野と運動した授業(特に食生活や安全・衛生)に努めた。	B	健やかな体	①保健体育科では「健康の保持増進」を第一の目標とし、基礎体力の向上に努めるとともに、体を動かす楽しさや喜びを学ぶことで、生涯にわたって健康を意識し、運動を楽しむ生活を送れるようにしていく。②家庭科では、食教育と関連して保健体育・保健分野と運動した授業(特に食生活)を展開する。	①保健体育科では、毎授業においてランニングの時間を確保し、基礎体力の向上に努めた。また、体育理論も含め、各種目の特性の理解に重点を置き指導を行うことで、生涯体育の普及に努めた。②家庭科では、食教育と関連して保健体育・保健分野と運動した授業(特に食生活や安全・衛生)に努めた。	B	健やかな体	①保健体育科では「健康の保持増進」を第一の目標とし、基礎体力の向上に努めるとともに、体を動かす楽しさや喜びを学ぶことで、生涯にわたって健康を意識し、運動を楽しむ生活を送れるようにしていく。②家庭科では、食教育と関連して保健体育・保健分野と運動した授業(特に食生活)を展開する。	①保健体育科では、運動量の確保を意識的に取り組み、基礎体力の向上を図った。また、仲間と協力する場面を増やし、体を動かすことの楽しさや喜びを感じさせることに力を入れた。②家庭科では、特に1年生で、運動・休養・食事の三本柱の重要性と日リズムについて理解を深める指導を行った。	B
生徒指導	①朝のあいさつ運動により、お互いに声を掛け合える関係をつくる。教育相談期間や日々の生活の中で、生徒とコミュニケーションをとる時間を大切に信頼関係を育んでいく。②横浜子ども会議で話合ったことをもとに学校生活を見つめなおし、課題があれば解決に向けて取り組んでいけるように支援する。	①朝のあいさつ運動や、登校・下校指導の時間を大切に、生徒とコミュニケーションを深めた。教育相談はもちろん、授業や休み時間を生徒と過ごすよう心掛け、信頼関係を築いた。②横浜子ども会議で話合ったことをもとに、みんなが安心して過ごせる環境づくりに力を入れた。小中合同でのあいさつ運動を開始し、教員もまた、小中合同の連携をさらに深めた。	B	生徒指導	①朝のあいさつ運動や、登校・下校指導の時間を大切に、生徒とコミュニケーションを深めた。教育相談はもちろん、授業や休み時間を生徒と過ごすよう心掛け、信頼関係を築いた。②横浜子ども会議で話合ったことをもとに、みんなが安心して過ごせる環境づくりに力を入れた。	①朝のあいさつ運動や、登校・下校指導の時間を大切に、生徒とコミュニケーションを深めた。教育相談はもちろん、授業や休み時間を生徒と過ごすよう心掛け、信頼関係を築いた。②横浜子ども会議で話合ったことをもとに、みんなが安心して過ごせる環境づくりに力を入れた。	B	生徒指導	①朝のあいさつ運動により、お互いに声を掛け合える関係をつくる。教育相談期間や日々の生活の中で、生徒とコミュニケーションをとる時間を大切に信頼関係を育んでいく。②横浜子ども会議で話合ったことをもとに学校生活を見つめなおし、課題があれば解決に向けて取り組んでいけるように支援する。	①朝のあいさつ運動や、登校・下校指導の時間を大切に、生徒とコミュニケーションを深めた。教育相談はもちろん、授業や休み時間を生徒と過ごすよう心掛け、信頼関係を築いた。②横浜子ども会議で話合ったことをもとに、みんなが安心して過ごせる環境づくりに力を入れた。	B
保健安全管理	①個々の職員による日常的な安全点検により、問題点の早期発見と適切な処置にあたる。清掃活動強化週間(クリーン共進)や落ち葉清掃活動の設定などによる清掃活動の充実させていく。②朝の健康観察、連絡なく欠席している生徒への確認連絡を確実にし、不登校の前兆、感染症の発生等に対し早期に対応できるようにする。	①危険箇所や問題点の早期発見と適切な処置にあたること、職員全体に周知し、安全意識の向上に努めた。クリーン共進や落ち葉清掃活動では、事前事後の指導と内容を工夫し、充実を努めた。②朝の健康観察や欠席確認連絡によって、不登校の前兆やいじめの早期発見、感染症対策に努めた。	B	保健安全管理	①過去の処置例や補修履歴等を提示し、安全点検後の迅速で適切な処置ができるようにする。学校薬剤師による環境検査の結果や助言を参考に、教室の空調の温度管理や換気を実施し、すこしやすい教室環境を維持するようにする。②気になる欠席や遅刻に対して、理由や状況を把握し、職員で共有し早期対応ができるようにする。	①安全点検については、庶務係を中心に技術員事務職も含めて会議を行い迅速的な手当てができた。各保健的行事において学校薬剤師による講演やアドバイスを受け、校内環境についても連携して取り組んでいくことができた。②欠席者遅刻早退者については、しっかりと把握し迅速な連絡対応ができた。	B	保健安全管理	①学校防災計画を見直し、30年度中に完成させる。そのことに関し防災に関する校内研修を行なった。また、引き取り訓練の実現化に向けて段階的に計画を立てて31年度実施に向けて取り組んでいく。②欠席者遅刻早退者については、理由や状況を把握し、職員で共有しながら早期対応ができるようにする。	①学校防災計画についての職員研修を実施した。職員の意識の向上を図ることができた。また、引き取り訓練について具体的な提案を示すことができた。31年度3月の実施に向けて準備を進めている。②生徒の健康状況を職員で共有し、素早い対応ができた。	B
保護者、地域との連携	①評価説明会や年4回の懇談会、地域懇談会で学校経営方針について説明を行う。②学校便りを毎月発行し、さらに学校ホームページに掲載して、教育活動の報告など積極的な情報発信に努める。	①については学校経営方針について説明することができた。②については学校便りを効果的に発行することができた。学校ホームページによる積極的な情報発信に努めた。	B	保護者、地域との連携	①評価説明会や年4回の懇談会、地域懇談会で学校経営方針について説明を行う。②学校便りを毎月発行し、さらに学校ホームページに掲載して、教育活動の報告など積極的な情報発信に努める。	①については学校経営方針について説明することができた。②については学校便りを毎月発行し、効果的に情報を発信することができた。また、学校ホームページによる積極的な情報発信に努めた。	B	保護者、地域との連携	①評価説明会や年4回の懇談会、地域懇談会で学校経営方針について説明を行う。②学校便りを毎月発行し、さらに学校ホームページに掲載して、教育活動の報告など積極的な情報発信に努める。また、メール配信による緊急時等の連絡を行えるようにする。	①今年度は土曜授業参観を1回増やし、また、学校を開く週間も2回に増やし、保護者との連携を増大させた。②学校便りを毎月発行し、効果的に情報を発信することができた。また、学校ホームページによる積極的な情報発信に努めた。メール配信による保護者連絡を行った。	B
特別支援教育	①生徒の持つ困り感について、学年学級の情報をもとに適宜ケース会議(SC、Co、養護教諭)を行い、可能な支援を展開する。②通級指導教室の専門的支援センター機能を特性から行動を理解する際に有効活用し、支援が生徒のニーズに適しているか評価する。	①月1回ケース会議を行った。学年の情報から正につくケースについて支援内容の適正について確認した。②Y-Pアセスメントを活用し生活指導における支援状況に効果が見られるのか確認した。成果が見られる学級が多く、指導支援に自信を持って取り組むモチベーションにつながった。	B	特別支援教育	①生活指導部や学年会の情報をもとに、月1回のケース会議(SC、Co、養護教諭、他)を継続し、適切な支援につなげた。②生徒の言動を特性から理解し、支援方針が検討できるように、「個別の指導計画」を現実的、実践的に役立つ資料として活用できるように整備する。	①月1回ケース会議を行う予定だったが、思うように会議をすすめて、SCと個々に話をもった。②今年度の通級指導教室利用生徒の「個別の教育支援計画」作成に向けて、通級指導教室の専門的支援センター機能を活用し学級担任と一緒に考えて取り組めた。生徒支援の方策を考えることができた。	B	特別支援教育	①生徒の持つ困り感について、学年学級の情報をもとに適宜ケース会議(SC、Co、養護教諭)を行い、可能な支援を展開する。②通級指導教室の専門的支援センター機能を特性から行動を理解する際に有効活用し、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と実際の支援が生徒のニーズに適しているか評価する。	①月1回ケース会議を行うことが難しかったため、SCが勤務日に情報交換や報告を個々に話をもつことを心がけた。②校内研修を2回も、特別支援教育全般の知識を学び、今年度の「個別の教育支援計画」作成の実践を行った。通級指導教室の専門的支援センター機能を活用し、学年から要望がでた生徒のケースカンファレンスを委員会のメンバーや学年学級担任と一緒に考えて取り組み、より良い生徒支援の方策を考え共有することができた。	B
				いじめへの対応	①「学校いじめ防止対策委員会」の存在及び活動を生徒及び保護者に周知し、いじめの未然防止のため、いじめが起きにくい、いじめを許さない環境をつくる。②教育相談や生活アンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。	①いじめの早期発見、事案対処のため、いじめの疑いに関する情報や生徒の問題行動等に係る情報の収集と記録を共有した。②いじめを受けた生徒に対する支援、いじめを行った生徒に対する指導の体制、対応方針の決定と保護者との連携といった対応を組織的に実施した。	B	いじめへの対応	①「学校いじめ防止対策委員会」の存在及び活動を生徒及び保護者に周知し、いじめの未然防止のため、いじめが起きにくい、いじめを許さない環境をつくる。②教育相談や生活アンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。③職員間の情報共有を大切に、担任一人で抱え込むのではなく、チームとして対応する。	①いじめの早期発見、事案対処のため、いじめの疑いに関する情報や生徒の問題行動等に係る情報の収集と記録を共有した。②いじめを受けた生徒に対する支援、いじめを行った生徒に対する指導の体制、対応方針の決定と保護者との連携といった対応を組織的に実施した。	B
人材育成・組織運営	①教科指導・人権指導・生徒指導や保護者との連携等の研修会を年4回実施する。②5年次までの教員が年間5回程度の授業見学と研究授業を実施する。	①教科指導・人権指導・生徒指導や保護者との連携等の研修会を年4回実施できた。②5年次までの教員が授業見学と研究授業を実施したが、あまり計画的に行うことができなかった。計画的に研究授業等を行うことが来年度の課題である。	B	人材育成・組織運営	①教科指導・人権指導・生徒指導や保護者との連携等の研修会を年4回実施する。②5年次までの教員が年間5回程度の授業見学と研究授業を計画的に実施する。	①教科指導・人権指導・生徒指導や保護者との連携等の研修会を年4回実施できた。②5年次までの教員が授業見学と研究授業を実施したが、計画的に行うことができなかった。来年度は計画的に研究授業等を行えるようにする。	B	人材育成・組織運営	①教科指導・人権指導・生徒指導や保護者との連携等の研修会を年4回実施する。②5年次までの教員が年間5回程度の授業見学と研究授業を計画的に実施する。また、5年次までの教員が集まって講習会を開けるように計画する。	①教科指導・人権指導・生徒指導や保護者との連携等の研修会を年4回実施できた。②5年次までの教員を含む、全校員による授業見学と研究授業を実施することができた。また、10年次までの教員によるメンターチームの研修会を開くことができた。	B
ブロック内相互評価後の気付き	各教科ごとに研究授業参観を行い、9教科授業に関する協議及び9年間のつながりに視点を置いた意見交換を行った。小学校の教室環境づくりが大変参考になった。学校スタンダードをそえる努力をしてきたが、引き続きの努力が必要であるとの意見となった。			ブロック内相互評価後の気付き	教科毎に研究授業参観を行い、授業に関する協議及び国際的な視点からどのような指導をいっているかなどの意見交換を行った。授業では多くの教科でグループワークが行われていて、リーダーを中心に活発な話し合いが行われていた。また、ICTを活用した授業も多く、視覚的にも興味関心を引き、集中して授業に臨めるなどの意見があった。今後はグループの構成の仕方やICTの更なる具体的な活用法を研究していく必要がある。また、国際的な視点からは、図や写真を使用し、視覚的に分かりやすい授業を行うことや、授業への通訳の必要があるとの意見があった。			ブロック内相互評価後の気付き	今年度は、教科毎の研究授業研修という形式ではなく、「働き方改革」をテーマに研修を行い、教職員の多忙化を少しでも解消できる方法話し合った。教職員の長時間労働が続くと、健康被害がさらに増加し、その心身の疲労のため良い授業ができなくなり、児童生徒への教育にも悪影響を与えてしまう。また、そのような状況を情報化社会の現在ではよく見ている。学校へ優秀な人材が来なくなってしまうという悪循環が起こる。そこで今ある制度の中で変えられるものと、削減できるものを検討する必要がある。また、意識や考え方をポジティブに持っていくことも重要である。		
学校関係者評価	・中学生の地域行事の参加は、学校からの協力が必要だが中学生にとって魅力ある行事の工夫も必要と考える。・桜まつり、南まつり、光のぶるむなあと等小中学生ともに喜んで参加する行事も多い。・部活動が盛んで生徒が元気にやっているところがある。中学校お弁当事情やアレルギー対策はどうなっているのか。・小中の連携や交流が充実しているのはいいが、学力の定着に向けて一層の協力が望まれる。・小学校で学んだお囃子など伝統文化を中学校で継続できる方法がないか検討してほしい。			学校関係者評価	・学校生活や部活動など、楽しんで過ごしているようなので安心している。・小中の連携や交流が充実しているが、学力向上に向けて一層の協力が望まれる。・今の生徒は落ち着いてきて、地域で問題を起こすこともなくなり、あいさつも元気にしてくれる。・中学生の地域行事の参加をお願いしたい。桜まつり、南まつり、光のぶるむなあと等小中学生ともに喜んで参加する行事も多いが、小学校で学んだお囃子など伝統文化を中学校で継続できる方法がないか検討してほしい。			学校関係者評価	生徒は楽しく学校生活を過ごし、落ち着いて学習に取り組む環境が整いつつあるも、定期テストの結果や全国または横浜市の学習状況調査の結果から、学力が定着できていないと考えられる。今後も指導の工夫改善を行い、放課後学習会の定期開催など「わかる授業」に個に応じた指導から学力の定着を図っていく。学校評価アンケート結果から、教職員の見方と生徒・保護者との見方で、意識のずれが少しみられたが、今後の教育活動で改善できるように取り組んでいく。生徒の安全に関しては、PTAや地域の協力を得て「安全で安心な学校づくりを目指していく」。		
学校経営中期取組目標振り返り	・新たな学校経営中期目標を掲げ、7つの重点取組分野の目標の実現に向けて、全職員で第一歩を踏み出した。担当部署を明確にしたことが、職員の参画意識の向上につながった。・生徒の地域活動への積極的な参加については、学校と地域が連携して取り組んでいく必要があると考える。「まち」とともに歩む学校懇話会を中心としながら、新たなアイデアを生み出していきたい。・本年度、新たに立ち上げた取組を来年度に向けてさらに充実したものにしていきたいと考える。			学校経営中期取組目標振り返り	・学校教育目標の下、学校経営中期取組目標において、9つの重点取組分野の目標の実現に向けて、全職員で取り組んできた。担当部署が明確になって、職員の参画意識の向上につながっている。・生徒の地域活動への積極的な参加については、学校と地域が連携して取り組んでいく必要があると考える。「まち」とともに歩む学校懇話会を中心としながら、取り組んでいきたい。・2年目となり行ってきた取組を来年度に向けてさらに充実したものにしていきたいと考える。			学校経営中期取組目標振り返り	・中期学校経営方針における3年目のまとめ期において、9つの重点取組分野の目標の実現に向けて、全職員で取り組んだ。今年度は学校独自の学校経営計画の冊子を作成し、全職員が手元に置くことにより、担当部署が明確となり、職員の参画意識の向上につながった。生徒の地域活動への参加については、学校と地域が連携して、今までにない新たな形も含めて検討し、「まち」とともに歩む学校懇話会を中心としながら、取り組んでいく。今年度は学校教育目標についても検討を重ね、来年度から学校教育目標を改変し、さらに充実した取組にしていきたいと考える。		